

CASE STUDY

Michael Feldman, MD, FACS

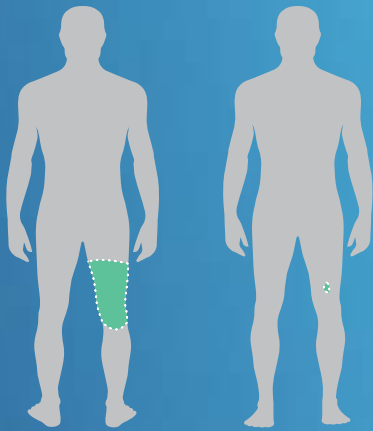
Virginia Commonwealth University, Richmond, VA

患者の状態

蒸気による深達性部分層熱傷を受傷した51歳女性。本症例では、網状分層植皮術及びRECELLを使用した治療それぞれの採皮部のアウトカムに注目する。

CONTROL
採皮部

RECELL
採皮部



結語

本症例では、2:1網状STSG用の採皮部と比較してRECELL治療のための採皮部の治癒アウトカムが示されている。1年後の整容性や創部の盛り上がりや血色が改善したのと同じように急性期の疼痛も軽減されたという報告がRECELLの採皮部ではされている。

従来の自家植皮のための採皮部に比べ、RECELL[®]での治療用の採皮部では患者負担が軽減された

採皮直後

採皮2週後

採皮52週後

CONTROL DONOR SITE



RECELL DONOR SITE



治療法

この患者の治療は、前向き無作為化比較試験の一環として実施された。熱傷部位を同等の2つの部位に分け、無作為に2:1網状分層植皮 (STSG) またはRECELLで治療を行う事とした。深さ0.014インチ、147cm²の採皮片を左大腿部後部から2:1自家網状植皮のために採取し (図A)、深さ0.008インチ、4cm²の採皮片を左大腿部前面 (図B) から採取し、RECELLシステムを使用し、Spray-On Skin[™]Cellsを作成した。どちらの採皮部もTelfa[™] Clearで被覆後、Xeroform[™]及び厚みのあるドレッシング材で被覆し、滲出液の吸収と再生中の表皮の保護を行った。

臨床的アウトカム

STSG用 (コントロール)、RECELL用採皮部のどちらも、2週目で完治した (図C&D)。この時、STSG採皮部における疼痛スコアは84であったのに対し、RECELL採皮部では、1 (疼痛なし)であった。52週目に1 = 「Terrible」、100 = 「Exceptional」としたVSSを用いた整容性評価では、患者はSTSG採皮部 (図E) で46、RECELL採皮部では100またはExceptionalと評価した (図F)。RECELL採皮部では、血色は異常無しで柔軟性も問題無かったが、STSG採皮部では創部の盛り上がり < 2mmで、血色はピンク、柔軟性は問題無しという評価であった。

